

県吹奏楽コン 初の中止

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、県吹奏楽連盟は13日、第69回県吹奏楽コンクールを中止すると発表した。全国大会などの中止決定を踏まえるとともに、収束が見通せない中で練習もできておらず、実施は困難と決断。千田豊理事長は「出場者や来場者の生命の安全を最優先した。苦渋の決断で心が痛む思い」とコメントした。1952年から続くコンクールの中止は初めて。

(西村 綾乃)

新型コロナウイルス感染拡大で連盟

今年の県大会は7月30日から8月13日にかけて、相模原市や横須賀市などで開催予定だった。小学、中学、高校、大学、職場・一般などの部門で、昨年は559団体が出場していた。

県吹連は、同コンクールのほか第21回県吹奏楽連盟各支部大会、第31回県マーチングコンテスト・第19回県小学生バンドフェスティバルの中止も決めた。全日本吹奏楽コンクールを主催する全日本吹奏楽連盟などが10日に中止を決定。全国

大会への予選を兼ねた東関東大会も13日に中止を公表していた。

中止決定を受け、8回の全国大会出場を誇る横浜創英中学・高等学校（横浜市神奈川区）吹奏楽部で、部長を務める3年の男子生徒は「定期演奏会や、地域の祭りなどが次々に中止になる現実には、つらく悲しい」と吐露した。

3月からの休校で部員147人は合奏練習を中断。フルートなど楽器を持ち帰ることができない生徒は、独自に練習を続けてきた。それだけに悔しさは残るが、

同部長は「先輩がつないでくれた熱い思いを、未来の部活を担う新入生に受け継ぎたい」と強調。好機と捉え、規則を見直すなど後輩のためにより良い活動環境を整えようと前を向いた。

1978年の音楽監督就任後、神奈川大吹奏楽部を

全国大会で30回の栄冠に導いた小澤俊朗さん(75)は「中止の決断は致し方ない」と肩を落とす。ただ「コンクールは吹奏楽を続ける目的ではなく、目標のひとつ」とも語り、「仲間と合奏ができない期間に楽典を学ぶなどして、表現力を磨いてほしい」と部員らにエールを送った。同校は4月上旬から校舎の出入りが禁止され合奏ができいない状況が続いていたという。

一方、東海大相模高（相模原市南区）吹奏楽部顧問の矢島周司さん(45)は「コンクール至上主義になり、大会が終わったら楽器をやめてしまう子も多かった」と指摘。その上で「大会の中止は残念だが、この機会が転機になれば。音楽を一生続けたいと思えるよう、音楽の楽しさを今こそ伝えたい」と力を込めた。



横浜創英は3月に開催予定だった定期演奏会も中止した。写真は過去の演奏会
|| 横浜市西区

全国大会 常連校 「次々中止、悲しい」